

施策評価表(平成20年度の振り返り、総括)

作成日 平成 21 年 4 月 1 日

施策No.	30	施策名	国際社会との共生
主管課名	地域協働課	主管課長名	畠山 正毅
関係課名	市民課、学校教育課		

施策の目的 【対象】	市民	対象指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
		人口	人	46,723	46,459	46,036		

施策の目的 【意図】	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会への理解が進み、国際感覚が豊かになっている。 外国人が訪れやすく、過ごしやすい環境になっている。 民間レベルでの国際交流が盛んである。 	成果指標名	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度目標	22年度目標
		①日本語ボランティア受講者数	人	23	20	10	15	15
		②国際交流推進員登録者数	人		16	17	17	20
		③施設などで外国人が利用しやすい環境整備が進んでいると感じている市民の割合	%	7.1	5.0	5.0	7.0	10.0
		④国際交流事業実施・派遣回数	件	136	12	15.0	15.0	20

成果指標設定の考え方	<p>①日本語ボランティアの受講者数を見ることによって、多文化共生の地域づくりに貢献できることから、これを成果指標とした。</p> <p>②国際交流推進員登録人数を見ることで市民の国際交流事業の関心度、また、国際社会への理解、国際感覚が育っていることが読み取れるから、これを成果指標とした。</p> <p>③外国人にも利用しやすい環境の整備に対する市民の意識を聞くことにより、国際環境の整備状況が把握できるので、これを成果指標とした。</p> <p>④国際交流推進員の派遣等活動件数を見ることで、市民の国際社会への認識と関心が読みとれるから、これを成果指標とした。(ただ、従来国際交流員の活動で、未就学、児童センターへの国際交流事業を中止にしたことにより18年度以前の従来の指標とは、内容が違うので、評価はできない。)</p>
------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成果指標の把握方法(算定式など)	<p>①地域協働課の資料により把握 市民課で募集している日本語ボランティアの登録者の台帳による</p> <p>②地域協働課の資料により把握 市民課で募集している国際交流推進員の登録者数</p> <p>③企画政策課の市民意識調査により把握</p> <p>④地域協働課の資料により把握 市主催の国際交流事業、国際交流推進員等派遣件数</p>
------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民	<ul style="list-style-type: none"> 市広報等での呼びかけに応じて、各種国際交流事業等に参加し、国際感覚を深める。 民間レベルで国際交流に積極的に取り組む。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> 外国人が訪れやすい環境を整備する。 国際感覚を身につけてもらうための場を提供する。 国際交流推進員が主体となり国際交流事業等を企画する。 他団体等の国際交流事業に国際交流推進員の派遣等、事業への支援に応じていく。
	その他	

施策No.	30	施策名	国際社会との共生
20年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景(近隣他市や以前との比較、特徴、その要因と考えられること)		
	ア. 成果水準の推移(成果水準がここ数年どのように推移しているかを中心に記述)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・CIRの廃止により、事業の実施やCIR派遣交流が減少した。 ・在住外国人や市民を国際交流推進員として登録し、市の国際交流事業の企画、実施を行い、また、市内各団体の国際交流事業に人材を派遣する等、各団体の国際交流イベントを支援した。 ・アンケート数値が低く、これからも外国人が利用しやすい環境整備を行う必要がある。 ・友好親善都市タイ王国チェンマイ市との交流が少なくなってきたおり、友好関係を継続していくための方策を探る必要がある。 		
	イ. 近隣他市との比較(成果水準が近隣他市と比較してどうであるかを中心に記述)		
	黒部市、滑川市にはCIRが一名ずつおり、CIR廃止後の魚津市の事業内容、実施回数、水準等は、決して高いとは言えない。		
	ウ. 住民期待水準との比較(成果水準が住民が期待していると思われる水準と比較してどうであるかを中心に記述)		
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語ボランティアの登録者数や外国人指導については、在住外国人の需要に役立っていると思う。 ・国際交流推進員の活用は、CIR実績と比較すると僅かであり、もっと増えるよう企画する必要がある。また、個々の推進員の要望も聞き、対応したい。 ・市民アンケートから、外国人が訪れ、過ごしやすい環境の整備にいたっていない。 			
2. 施策の成果実績に結びついているこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括 (ここ数年の間、施策の成果向上に貢献してきた主な事務事業の取り組み内容を中心に記述)			
<p>【多文化共生】日本語ボランティアによる外国人の支援に取り組んでいる。</p> <p>【環境整備】環境整備については、過去に取り組んできたところであり、近年は特に行ってない。工事に合わせての看板設置等、他の部署への協力依頼も含め、引き続き環境整備に努めたい。</p> <p>【国際交流の促進】CIRに代わる国際交流推進員を配置した。タイ王国チェンマイ市との友好関係の継続の方策を探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚津市日中友好協会等の市内各団体等の国際交流事業を支援していく。 			
3. 施策の課題認識及び21年度の取り組み状況(予定) (20年度末で残った課題、既に21年度に取り組んでいること、又は取り組むこととしている予定を記述)			
<p>【多文化共生】日本語ボランティアによる外国人の支援に取り組んでいる。</p> <p>【環境整備】環境整備については、過去に取り組んできているところであり、近年は特に取り組んでいない。</p> <p>引き続き環境整備に注意していく。</p> <p>【国際交流の促進】国際交流推進員制度要綱制定。タイ王国チェンマイ市との友好関係を維持していく。また、魚津市日中友好協会等の市内各団体、機関への国際交流事業を支援していく。</p>			

施策の トータル コスト	区 分	単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績
	A. 本施策を構成する事務事業の数	本数	6	4	3		
B. 事業費 (事務事業の事業費合計)	千円	6,994	2,844	482			
C. 事務事業に要する年間総時間	時間	2,720	2,060	1,880			
D. 人件費 (C×1時間あたりの平均人件費)	千円	11,179	8,261	7,905			
E. トータルコスト (B+D)	千円	18,173	11,105	8,387	0	0	
効率性 指 標	対象(受益者)1単位あたり、若しくは市民1人あたりの施策の	円	150	61	10		
	F. 事業費 (定義式 : B/人口)	円	239	177	17		
	G. 人件費 (定義式 : D/人口)	円	389	238	182		
	H. トータルコスト (定義式 : E/人口)	円					